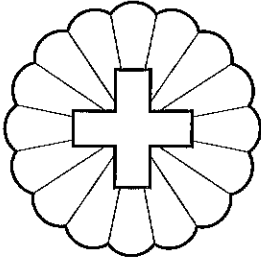


会報

— 12号 —

平成27年11月15日発行
発行者 皆川 浩一
広報編集者 小島南海雄



公益社団法人 東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ
指圧師会広報局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町37-4

Tel 03(3252)8811 Fax 03(3252)8813

施術者も患者もみんなで問いただそう!!

◆『東京くらしねっと』11月号の事実誤認表記

◆はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師は全員国家資格免許保有者です

問題となった記事は、『東京くらしねっと11月号』（東京都消費生活総合センター発行）に掲載のQ&A方式の“カイロプラクティックで骨折”した相談者への回答記事です。回答のタイトルに「整体やマッサージ、カイロプラクティックなどによる健康被害が増えています」とあり、続く回答文で「整体やマッサージ、カイロプラクティックなどの、手技による民間療法は、現在の日本では法律に基づく資格制度がありません」と事実誤認の説明がありました。回答者の文責もなく、国家資格保有者である施術者にも、免許があるから安心と施術を受けている人にも見逃すことのできない誤表記、認識不足の内容となっています。

都師会としては、

- ①HP上での修正記事の発表
- ②『東京くらしねっと』本誌上での訂正記事の掲載
- ③はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧を一般の方々によく知ってもらうための関連記事の掲載

を、お願いすることにしていきます。

会員各位には上記都師会の方針をふまえたうえで、問い合わせがありましたら適切に対処していただきたく存じます。また、施術を受けていらっしゃるの方々にはご心配をおかけいたしました。はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師は全員が国家資格免許保有者ですのでご安心ください。

公益事業実施報告

健康の維持・増進に役立つ、日本伝統鍼灸の真髓を学ぶ

平成27年度東京都委託施術者講習会の講座内容から

第3回講座は、寝たきりの患者さんを抱える一般家庭においても家族の介護負担の軽減につながる講習会でした。その方法論については、イラストや写真などで説明されている西村先生の図書（❶を参照）でよくわかります。

第4,5回の講座は、鍼と灸の活用に関する講座でした。第4回講座は、施術者にとっても難しかったのですが、一般の方々には特に難しく感じられるかもしれません。しかし、両講座とも東洋医学の奥深さを知るとともに、さまざまな治療法の追究により体の調子を整えることができることは理解できたかと思えます。

都師会の講習会では、参加者が実技演習の被験者となることができます。はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧などの東洋医学を体験できる絶好の機会ですので、是非次回以降の参加をご検討ください。第6回以降の講習会については、「東京都委託講習会後期予定表」（8ページ）をご参照ください。

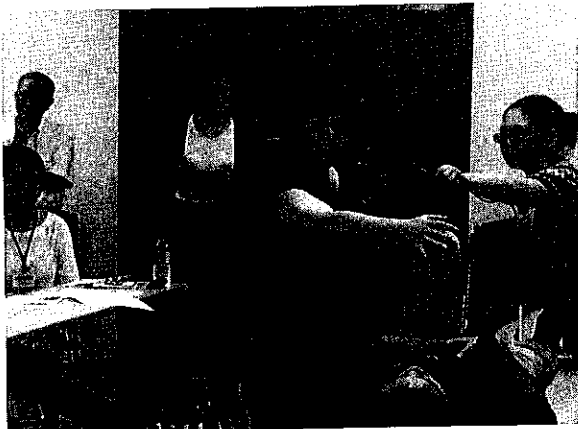
❶患者さんを重力に負けない姿勢に戻す方法

——平成27年度第3回東京都委託施術者講習会

講座：AZP理論で在宅訪問リハを始めよう

講師：西村久代（大阪・訪問リハビリ研究センター代表）

西村先生は、関西の在宅ケアの草分け的な存在で、著書『あはき師のための「在宅ケア実践マニュアル」』（ヒューマンワールド）やDVD『在宅ケア実践テクニック』（同）などがあり、大阪府知事や厚生労働大臣からも表彰を受けている。その先生をお招きし、マッサージによる訪問リハビリの基本的な考え方と手技を学ぶのは、一昨年に続き二度目。今回も、元気のよい大阪弁で、会場の学生や若い治療家たちを叱咤激励しながら、時代が要求する在宅ケアへの参加の意欲をかき立ててくれた。



西村先生がいうAZP理論とは、Anatomic Zero Positionの略で、「解剖学的肢位」のこと。これは、頭は体の中心線上、肩甲骨は左右対称で横一直線、上肢は肘を伸展させて手のひらが前方を向き、下肢は大腿骨から足関節まで平行で、足幅は14cm、足の中指が前方を向くという姿勢で、アルファベットHの形になる。この姿勢で人間は一番効率のよい重力のかけ方ができ、身心が安定し、呼吸

が深くなり、気血の循環がよくなり、健康を保てるのだという。

それはどうしてか。先生は、5kgの鉄アレイを使って実感的に解説した。

「この鉄アレイ、ずしんと重いですね。それは皆さんの頭の重量です」

頭蓋骨ずがいこつはそんなに重いのかと改めて驚く。

「それを7個の頸椎けいつい、12個の胸椎きょうつい、5個の腰椎ようつい、骨盤、大腿骨けいこつ、脛骨しよくつ、踵骨しよくつが支えている。

AZP（解剖学的ゼロポジション）であれば、重力を骨がきちんと支え、筋肉にストレスをかけません。AZPを外れば外れるほど筋肉にストレスを与え、疲労、老化を早めます」

多くの人は、長年、生活の中でAZPを外れねこ背になり、そのために病気になり老化が進む。先生は、訪問リハビリの目標は、患者さんをAZPの姿勢に戻すことだと言う。

「また、施術方法にAZPを利用すれば、寝たきりの方が座り、立ち、歩くことも可能になります」

モデル患者を相手の実技では、その方法が次々に説明された。

脳血管障害で片まひになった患者さんは、関節が本来の位置（AZP）から離れ、組織や形状が変形を起こしている。施術者はAZPに戻るようにイメージしながら、萎縮いしよくした関節や筋肉をほぐす徒手矯正術をほどこす。

「寝たきりの患者さんを抱えようと、無理して引っ張っても危ないです。そんなとき、患者さんの姿勢をAZPにすれば、施術者も腰痛にならず、簡単に持ち上げられるんです」

弛緩性しかんまひの患者さんの体位変換および施術では、枕やクッションを利用してAZP状態に姿勢を整えながら行くと、不快を感じさせず安全に効果をあげることが示された。

AZP理論は、訪問リハビリを行う治療家がわきまえておくべき有効な技術である。それと同時に、寝たきりの患者さんを抱える一般家庭においても、その方法論をイラストや写真などで説明されれば、家族の介護負担の軽減につながる、と心強く感じることでできた講習会だった。

2 霊亀八法による時間治療の不思議

——平成27年度第4回東京都委託施術者講習会

講座：すぐできるVAMFIT（経絡系統治療システム）入門

講師：木戸正雄（日本鍼灸理療専門学校教務部長、経絡治療夏期大学講師）

木戸正雄先生は、経絡治療夏期大学の講師を務める経絡治療派の臨床家けいらく。経絡（ツボとツボを結ぶ気・血の循環・反応経路）治療とは、一般に手首の六部定位脈診ろくぶじょういみくしん（手首の6か所で脈をとる診断法）で虚きよした（精気がない状態になった）経脈けいみやく（気・血の回路）を察知して手足の要穴ようけつ（重要なツボ。穴とはツボのこと）を補瀉ほしゃする（虚した経脈はエネルギーを補充し、病んだ気が満ちた経脈はその気を排除する）鍼灸治療法である。その派に属しつつ、木戸先生は広い視野で鍼灸の宇宙論的な思想を探究し、「VAMFIT（経絡系統治療システム）」「天・地・人治療」など、古典的であり同時に新しい技術の開発者として知られる。

今回は、首を動かしたときの痛み、つっぱりが風池、人迎、天突、風府などの経穴付近にあれば奇経の異常と診て治療する「VAMFIT」の一方法と、1日の時間に合わせて治療穴を選ぶ霊亀八法という二つの奇経治療を紹介して下さった。

鍼灸医学では人体にはエネルギーが流れる回路として、正経と呼ばれる中心的な経脈と奇経と呼ばれる傍流の経脈があると考えられている。鍼灸学校では、12本ある正経は詳しく学ぶが、8本の奇経についてはほとんど学ばない。奇経治療は中国古代の道教徒が研究し、効果が高いとされている。霊亀八法は奇経治療の一つで、日の干支と時間の干支の二つを組み合わせて治療経穴を判定する不思議な方法。うわさには聞いても、学ぶ機会がほとんどなく今回の講義は貴重な体験だった。

「東洋医学は人を大宇宙に対応する小宇宙ととらえ、その変動を治療する医学です。大宇宙の運行は月日や1日の時間として把握されますが、それとかかわる生体の時間変動を目標とした治療方式も発見されてきたのです」

と木戸先生は話し始めた。例えば、最古の医書の名残をとどめるとされる『黄帝内経素問』には、月齢による治療法や春夏秋冬の四季ごとに異なる治療法が記載されている。600年ほど前の明の時代になると、1日のうちの経脈の気が旺盛になる時間を見計らって特定の経穴を使う子午流注鍼法などが現れる。これは正経の十二経脈が対象である。

「それに対し、奇経八脈を時間的規則に運用した治療法が、霊亀八法です。霊亀八法は奇経八脈を用いる時間治療法で、『鍼灸大全』に徐鳳という人が初めて記しました」

『鍼灸大全』には、霊亀八法之図が載せられている。易の八卦（乾・兌・離・震・巽・坎・艮・坤）を東西南北など八方向と九つのマス目の中の数字のどれを足しても15になる魔方陣の九つの数字に配合し、それぞれに奇経治療に使用するツボを配置している。方角を抜いたそれぞれの関係は、次のようになる。

坎一申脈、艮八内関、震三外関、巽四臨泣、離九列缺、坤二五照海、兌七後谿、乾六公孫。

「霊亀八法で使うその日その時刻の穴は、この原則に基づく計算によって算出されます。その後、楊繼州という人が『鍼灸大成』という本で「六十甲子日」として、天干と地支の六十パターンの組み合わせ日の各時間の開穴（その時間に開いている効果的なツボ）を一覧表にまとめました。それによって暦で干支を知れば、使用できる穴が分かり誰でもすぐ使えます」

楊繼州の一覧表は酉の刻（午後7時）までしか示されていないので、以降は自分で開穴の算出をしなければならぬ。それには、『鍼灸大成』に書かれている「八法逐日干支歌」によって日の干支を、「八法臨時干支歌」によって時の干支を、それぞれ数字に変換して、決められた式に当てはめ割り算する。そして商のあまりの数を『鍼灸大成』の「霊亀八法之図」で対応させて開穴を割り出す作業が必要になる。

「八法逐日干支歌」

甲・己・辰・戌・丑・未は十、乙・庚・申・酉は九を期と為し、丁・壬・寅・卯は八の成数、戊・癸・巳・午は七を相依り、丙・辛・亥・子もまた七の数、逐日の支干は即ち知

り得る。

「八法臨時干支歌」

甲・己・子・午は九を宜しく用い、乙・庚・丑・未は八にて疑うこと無かれ、丙・辛・寅・申は七を数と作る、丁・壬・卯・酉は六にて須く知る、戊・癸・辰・戌は各々五を有し、巳・亥は単に四を加えて共に齊し。陽日は九で除し（割り）、陰は六で除し、零に及ばざるあまりの穴を下に推す。

なぞめいた分かりにくい表現だが、陽の日は、（日干数+日支数+時干数+時支数）÷9で計算し、陰の日は、（日干数+日支数+時干数+時支数）÷6で計算して、余りの数を靈龜八法之図と照合せよという意味なのである。



「それでは練習問題です。今日（平成27年9月20日）の干支は己亥です。午後3時～5時の干支は、壬申です。「八法逐日干支歌」によれば己の数字は10、亥は7です。「八法臨時干支歌」によれば壬の数字は6、申は7です。己亥は陰の日なので、計算結果は（10+7+6+7）÷6=5。さあ、困った、あまりが出ない。こういうときは、答えを4とあまりが6と考える。東洋医学では、割り切れることよりも、割り切れないことのほうが重要、あまりが出ることが大事なんです。そこから、靈龜八法之図に“乾六公孫”とあるので、公孫穴が現在の時間の治療穴となります」

鍼灸技術の解説が、こみ入った干支と算数の解説になるとは、驚くべき展開だ。数字の神秘術が好きなのは中国人固有の思考様式なのだろう。

さて、実技演習のモデル患者さんは、二十代初めの女性。左肩が凝り、右膝が肉離れの後遺症でしびれている。

「今の時間は、公孫が開いている、ということでしたね。公孫は衝脈（8本の奇経の一つ）のツボなので、衝脈で治療できる症状がこの方にあれば好都合なんです。単にその時間に合ったツボではなく症状にも合ったツボを使うことが大事です。この方の状態を、足の陰の部分の異常があるために、肩の異常が出ているととらえると、衝脈が関係し、公孫が使えることとなります」

木戸先生が左の公孫穴に鍼を刺すと、女性の肩が楽になり、足のしびれも軽くなった、へその左側の圧痛も消えたということだった。

「キケ（奇経）ーって思っていると、奇経はほんとに効くんです」

今回の講義は難解で、チンプンカンプンの参加者もいたに違いない。しかし、木戸先生お得意の洒落を楽しみつつ、東洋医学の摩訶不思議さ、奥行きをたっぷり堪能できたのではないだろうか。

③灸は効くものではなく効かすもの

——平成27年度第5回東京都委託施術者講習会

講座：プロフェッショナルきゅう師への第一歩～深谷灸法入門

講師：福島哲也（東京九鍼研究会、灸法臨床研究会講師）

深谷灸法とは、昭和の名灸師とうたわれた深谷伊三郎ふかや いさぶろうが四十数年の灸一筋の臨床経験から構築したお灸の治療法。福島哲也先生は、伊三郎の孫弟子にあたる。深谷灸法には、「灸法の基本十項」という指針が伝えられている。

- ①経穴けいけつ（＝ツボ）は効くものではなく、効かすものである。
- ②本に書かれた経穴部位は方角を示すのみ。
- ③経穴は移動する。
- ④有名な「名穴」を駆使して効果をあげよ。
- ⑤少ない穴を使い効果をあげよ。
- ⑥反応のない穴は効きめが少ない。
- ⑦そこが悪いからとそこへすえても効果はない。
- ⑧「名穴」であっても、その症状だけに効くのではない。
- ⑨もぐさの大小や数は患者の体質に合わせよ（熱くないところは熱くなるまでする）。
- ⑩経穴は手際よく取穴しゅけつせよ。

これは、灸だけでなく鍼にも通じる極意だが、福島先生はそれを1項目ずつ解説することから講義を始めた。

「ツボに灸をすれば、誰がやっても同じように効くかというとならない。だから、深谷灸では、経穴は効くものでなく、効かせるものだというんです」

福島先生によれば、お灸の効果は「灸効＝選穴・取穴法×施灸術」の掛け算だという。

「どのツボを選びどこに取るか。効かせるためにどんな技術を使うか。この二つの掛け算です」

そのうち、より重要なのは、選穴・取穴法だという。

「選穴・取穴法と施灸術がそれぞれ10点で、掛ければ100点が満点だとします。いくら施灸術がうまくて10点でも、ツボの選び方、取り方がまずくて5点とすると結果は50点。

半分しか効きません」



深谷灸では、この症状にはこのツボと定番の「特効穴」「名灸穴」をよく使う。歯痛には合谷ごうこく、胃の疾患には三里さんりなどがある。しかし、経穴書の記載通り場所を取っても効くとは限らない。「経穴は移動する」からである。経穴書はツボの大体の場所を知る参考に過ぎない。では、何を基準にツボを決めるのか。

「深谷灸では、『黄帝内経靈樞』^{こうていだいけいれいききう} 経筋篇^{けいきん}の〈痛を以って輸と為す〉にのっとり、圧痛・硬結がある場所を基準にツボを選びます」

一般の灸治療では、へこんで柔らかい場所を選ぶ。からだの精気が乏しい場所にお灸で熱い気を入れて、精気を補うという考え方である。それに対して深谷灸は、体が病気と闘って邪気が満ちている場所を選び、邪気を瀉^{しや}す（とりのぞく）という考え方をしている。へこんで柔らかいツボに灸をしてもさほど熱くない。しかし、圧痛・硬結に灸をすると熱い。そこで熱さを和らげるために、深谷灸は秘密兵器を使う。

「それが、竹筒です。これは灸熱緩和器なんです。もぐさに火をつけ、その上にかぶせて強く押すと、熱さが和らぎます」

竹筒のもう一つの役割は、ツボ発見器である。これで目標の経穴の周辺を強く押すと、皮膚がアザのように赤く変色することがある。

「気・血の停滞している場所に現れる瘀血^{おけつ}反応です。そこは治療効果の高いツボと考えられます」

体験治療で、若い鍼灸学生男子の背中の督脈^{とくみゃく}（8本の奇経の一つで背骨の正中線と重なる）の左側を、福島先生が竹筒で強く押すと、その部分が周りと比較して明瞭に赤くなった。会場からは、「分かったーッ」とどよめきが上がった。

ツボの取り方には、古来さまざまな工夫があり、中国ではひもを使用して、図式的に取るおもしろいやり方が考案され日本にも伝わっている。今回、福島先生が紹介したのは、化膿性のデキモノやハレモノに対処する「瘡瘍^{そうよう}八処^{はっしょ}の灸法」だった。

瘡瘍が頭や顔にできたら、ひもを耳の上でぐると回し頭の周囲の長さを測り、その寸法を定める。瘡瘍が肩から上肢にできたら、ひもで肩の先から中指頭の端までの長さを測り、その寸法を定める。瘡瘍が胴体にできたら、両乳にそって胸囲を測り、寸法を定める。瘡瘍が鼠径部^{そけいぶ}から下肢にできたら、両足を合わせて左の親指から右の親指まで周囲をぐると測り、その寸法を定める。

それぞれの寸法から患者の手で一握りさせた長さを切り捨て、残ったひもの中央をのどぼとけに当て、背中へ垂れ下げ、その両端を合わせた督脈上に仮点をつける。そこから背骨をはさんでそれぞれ開くこと半寸の二点。ここが治療すべきツボとなる。それぞれに五十^そ壯（灸の数の単位）から百壯、お灸をすえると効果が現れるという。頭面、上肢、体幹、下肢とデキモノの場所ごとにそれぞれ二穴の灸穴が定められ、四部位合わせると八穴となるので、「八処の灸法」なのである。

「実際の臨床では、この方法で取った位置にこだわらず、指で触診して周辺の活きたツボを探すべきで、ツボは反応に従って選ぶ。それが鉄則です。これは鍼の場合も同じです」

講義の後半、聴講者は、ひもと竹筒、もぐさを使い、二人～数人が組になって、鍼灸学校では習わない古典のツボの取り方に熱中した。中国で2500年前に確立した灸療法は、日本で独自に発展し、江戸時代には医療の中心になった。昭和になると結核の治療にも活躍した。古典文献にのっとり灸の世界の奥行きが垣間見えた得がたい機会だった。

平成27年度 後期東京都委託講習会 (第6回～10回)

11月～来年3月の平成27年度後期東京都委託講習会の日程が決まりました。
 土曜日の「松塾」と日曜日の「杉塾」で1回ずつ(どちらか一方だけの参加も可能)。

参加費：無料。

参加方法：予約制。都師会HPからお願いします。



「鍼灸の思想」を学ぶ会

講師：松田博公 (都師会副会長、東京内経研究所)
 著書：『鍼灸の挑戦』(岩波新書)、『日本鍼灸へのまなざし』(ヒューマンワールド、日本伝統鍼灸学会40周年記念賞受賞)など。
 講座内容：『黄帝内経』に描かれた宇宙観、自然観、生命観は、鍼灸の臨床を豊かにし、伝統医療家の誇りと生き方の根拠になるものです。『黄帝内経』の思想と比較しながら、日本鍼灸の独自性、自然治療力思想に裏付けられたわだの意義を学びます。



伝統鍼灸基礎講座



講師：杉山 聡 (都師会大田区支部長、大成会主宰)
 著書：『鍼術達成講座』『鍼術上達講座』『鍼術完成講座』の三部作(緑書房)、『鍼灸いろは経・総論』『問・各論』(いずれも源草社)など。
 講座内容：入門期の皆さんに、伝統鍼灸の手ほどきをします。急性疾患の患者さんに効果を発揮できる陽経治療、慢性疾患に対応する陰経治療を学びます。診断には、脈診と体表観察を用い、『黄帝内経』の文章にも親しみます。



開催日程とテーマ

松塾	都師会会館3階会議室 〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町37-4 TEL 03-3252-8811	会場	東京都障害者福祉会館会議室 港区芝5-18-2 TEL 03-3455-6321 (代表)
松塾	テーマ：日本の気と中国の気は違う 日 時：11月7日(土) 午前10時～12時	第6回	テーマ：経絡の病症診断入門 日 時：11月8日(日) 午前10時～16時
松塾	テーマ：文化としての気と日本鍼灸 日 時：12月5日(土) 午前10時～12時	第7回	テーマ：証の決定入門 日 時：12月6日(日) 午前10時～16時
松塾	テーマ：日本語から見た日本文化 日 時：1月9日(土) 午前10時～12時	第8回	テーマ：陽経治療の基本 日 時：1月10日(日) 午前10時～16時 <small>第8回のみ、都師会会館3階会議室に会場変更</small>
松塾	テーマ：日本文化の特徴と日本鍼灸 日 時：2月6日(土) 午前10時～12時	第9回	テーマ：陰経治療の基本 日 時：2月7日(日) 午前10時～16時
松塾	テーマ：今期のまとめ 日 時：3月5日(土) 午前10時～12時	第10回	テーマ：今期のまとめ 日 時：3月6日(日) 午前10時～16時

申し込み・問い合わせ先 **公益社団法人 東京都 はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会**
 〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町37-4
 ☎ 03-3252-8811 FAX 03-3252-8813
 http://www.tokyo89am.or.jp/

《都師会の活動》

都師会は公益社団法人です。正会員は全員がはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師などの国家資格保有者で、「都民の健康の維持・増進に貢献する」ことを理念に、医療活動を行っています。お近くの治療院情報、各種お問い合わせは事務局にお寄せください。

《都師会事務局電話》 TEL / 03-3252-8811 FAX / 03-3252-8813
 メール / toshikai8811@ybb.ne.jp
 ホームページ / http://www.tokyo89am.or.jp/